

海岸漂着物等対策の実施状況（2022年度）等について

1 海岸漂着物等の回収・処理

県では、環境省の地域環境保全対策費補助金の海岸漂着物等地域対策推進事業を用いて、市町村等が実施する海岸漂着物等の回収・処理事業等に要する費用に対し、補助金^{*}を交付し、円滑な回収・処理を推進した。

2023年度も15市町村で海岸漂着物等の回収・処理事業等を実施予定。

※【補助率】通常：7/10、離島振興法に基づき指定された離島（県内では佐久島、篠島、日間賀島）：9/10。また、漁業者等がボランティアにより回収した漂流ごみ及び海底ごみの処理については、定額（上限1,000万円、10/10）。

海岸漂着物対策推進事業補助金の実績等（回収処理分）

| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023（予定） |
|---------------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 補助額 （千円） | 26,578 | 28,719 | 30,163 | 29,277 | 28,673 |
| 回収・ 処理量(t) | 459.5 | 442.7 | 497.3 | 348.4 | — |

2 発生抑制に関する取組

（1）海洋ごみ発生抑制環境学習プログラムを活用したモデル授業

2016年度に県が作成した海岸漂着物発生抑制対策のための室内版環境学習プログラム「カッパの清吉と海ごみのルーツを探ろう」を活用したモデル授業を県内小学校（2校）で実施した。

モデル授業の様子や環境学習プログラムの教材はWebで公開している。

(<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/kaigan/index.html>)

モデル授業の状況



小牧市立小牧小学校
2022年7月5日（火）
4年生4クラス対象



飛島村立飛島学園
2022年10月19日（水）
4年生2クラス対象

(2) 環境イベントにおける海ごみ発生抑制普及啓発

環境学習プログラムの体験などを通じ、海ごみ問題について知ってもらうため、以下の環境イベントにブースを出展し、普及啓発活動を実施した。

ブースでは、動画上映や環境学習プログラム（カードゲーム）体験の実施、啓発パネルや海ごみの実物サンプル等を展示した。

ブース出展の状況



SDGs AICHI EXPO 2022

2022年10月8日（土）

Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）



Let's エコアクション in AICHI

2022年11月6日（日）

太田川駅前大屋根広場

海ごみの実物サンプル（2022年9月採取）



全体



マイクロプラスチック

(3) 海洋ごみ発生抑制に関する川柳コンテスト

海洋ごみ問題について関心を持ち、海洋ごみの発生抑制に一人一人が取り組んでいただくため、「なくそう！海洋ごみ 川柳コンテスト」を開催した。

2022年9月15日から11月15日まで作品を募集した結果、959作品（567名）の応募があり、審査員（中日川柳会会長 荒川 八洲雄 氏）による審査を経て、入賞作品9作品を決定した。

優秀作品は、海岸漂着物の環境学習に関する県Webサイト「あいちのうみのコト」で発表するとともに、当該作品を用いて啓発用ポスター（別添1）や動画を作成・Webで公開するなど、海洋ごみ問題の普及啓発に活用した。

(<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/kaigan/senryu.html>)

(4) 海ごみゼロウィークへの参加

海ごみを削減する取組として、環境省と公益財団法人日本財団が連携し、5月30日（ごみゼロの日）から6月5日（環境の日）を経て6月8日（世界海洋デー）前後の期間を「海ごみゼロウィーク」と定め、海ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動の実施を呼び掛けた。

本県では庁舎周辺の清掃活動を行いこの取組へ参加、県内34市町村でも清掃活動を実施した。



(5) 「プラスチックごみゼロ宣言」の推進に係る取組

○ プラスチックごみ削減について学ぶ啓発動画の作成・配信

県民の皆様へプラスチックごみ削減について考え、行動に移していただくことを目的とした啓発動画「プラごみゼロ ちゃんと！ちゃんとちゃんと！」を作成し、Webで配信した（11月18日～）。

(<https://www.youtube.com/channel/UCByMu6N8M04ma6-6s13RmIw/videos>)

- ・ お笑い芸人の「ザ・たち」が、プラスチックごみ削減に向け、日々の生活の中で行うことができる取組を実践し、紹介する内容。
- ・ 動画は、「問題提起編」、「普段の生活編」、「旅行編」の3本（1本約4分～6分）に分かれており、それぞれの状況に応じた削減取組を紹介。

動画のイメージ



○ ワンウェイ（使い捨て）プラスチックごみ削減取組の表彰

「ごみゼロ社会推進あいち県民会議」*において、ワンウェイプラスチックごみの削減に関し、特に優れた取組を実施した次の2者を表彰した。

※ 公衆衛生、環境の保全、資源の有効利用の促進を図ることを目的に、消費者、事業者、行政が相互に連携しながら、一体となってごみゼロ社会の形成を推進するため、1993年に設立した団体（会長：愛知県知事、会員：111団体）

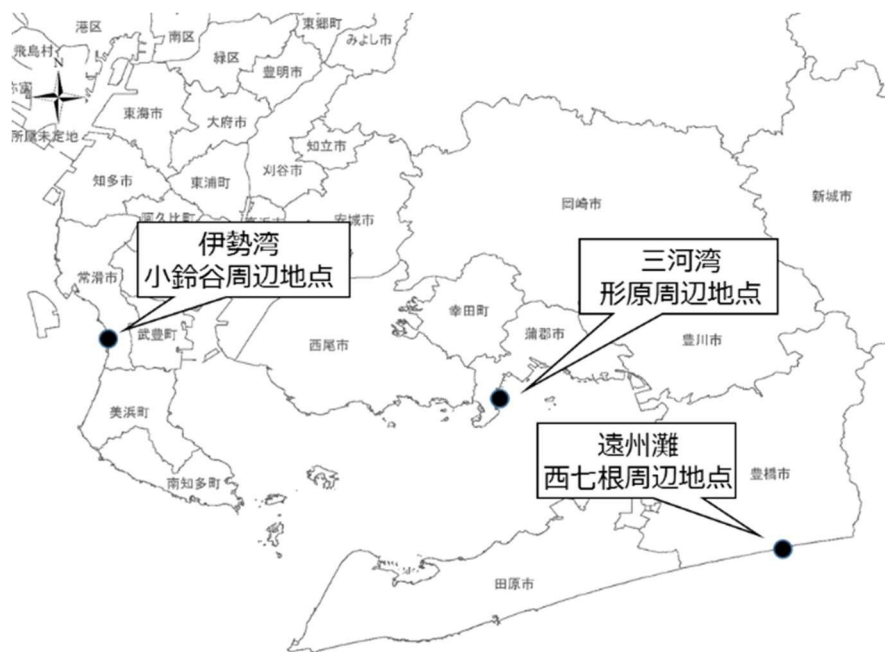
| 受賞者 | 取組名称 |
|--------------|-----------------------------|
| 金城学院大学（名古屋市） | U-Bag ビニール傘袋削減プロジェクト |
| 株式会社豊和（名古屋市） | プラスチック使用量を約98%削減した『歯磨きペーパー』 |

3 漂着ごみ組成調査の実施

海岸漂着ごみの組成及び量並びにこれらの経年変化を把握し、漂着ごみの実態把握及び今後の漂着ごみ発生抑制対策を効果的に実施するため、伊勢湾、三河湾及び遠州灘の海岸各1地点において、2020年度から漂着ごみの組成調査を継続実施。

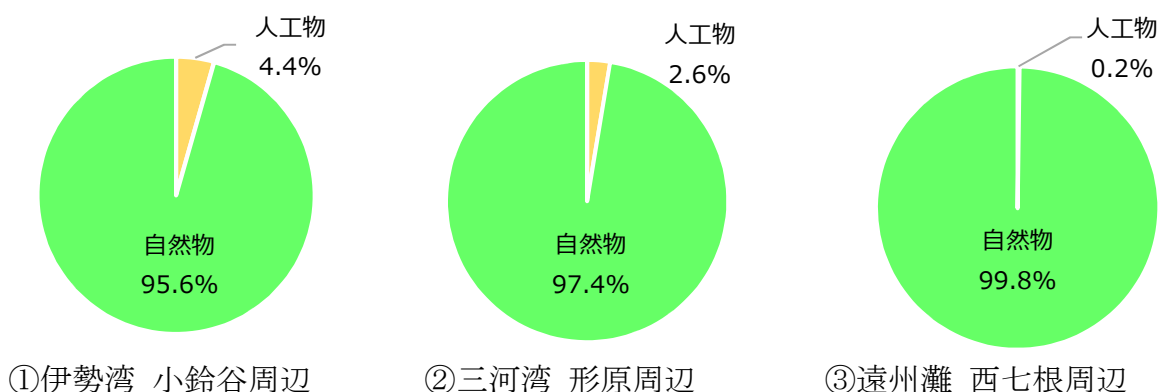
<2022年度の調査概要>

- 調査地点（調査実施日）
 - ①伊勢湾 小鈴谷周辺（2022年11月14、15日）
 - ②三河湾 形原周辺（2022年11月16日）
 - ③遠州灘 西七根周辺（2022年12月22日）

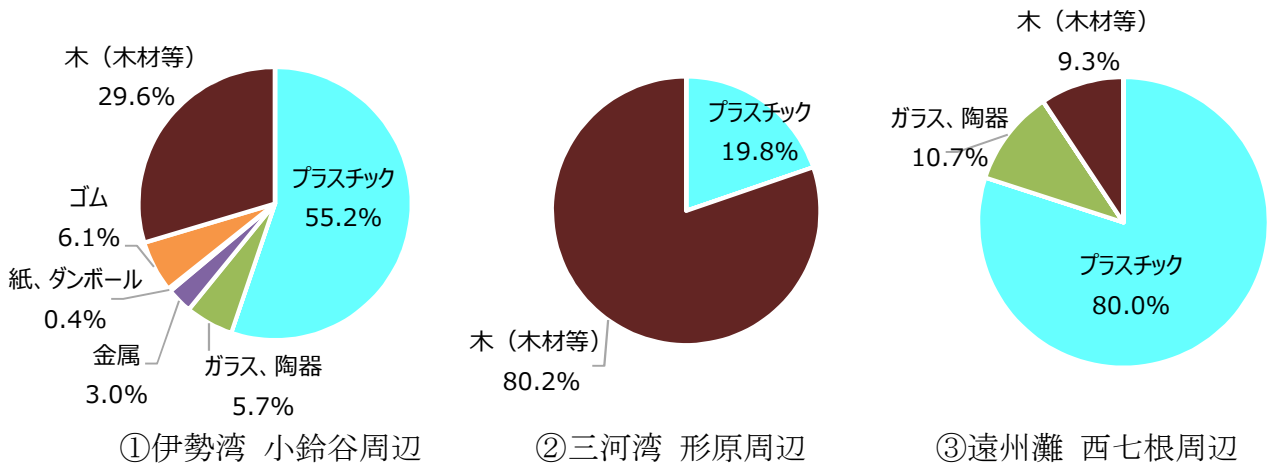


- 調査方法
「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン」（環境省）に準ずる。

調査結果（2分類別組成比（重量ベース））



調査結果（人工物の大分類別組成比（重量ベース））



4 2023 年度の取組予定

発生抑制に関しては、2022 年度と同様の環境イベント等へのブース出展や海ごみゼロウィークへの参加等に加え、消費者のプラスチックごみ削減の取組を促進するため、プラスチックごみ問題の現状等について、より深く学び、体感できる VR（バーチャルリアリティ）動画を作成・配信する予定。

また、海岸漂着物等の発生の状況及び原因に関する調査としては、漂着ごみ組成調査に加え、県内の主要河川における河川周辺（河岸・河川敷）に散乱するごみ（以下「河川ごみ」という。）の分布状況や組成の調査（別添 2）を予定。

なくそう! 海洋ごみ川柳コンテスト

結果発表

海洋ごみの発生抑制をテーマにした川柳959句の応募がありました!
 たくさんの御応募ありがとうございました!



今できる
スリーアールで
海を守る

向日葵さん(日進市)



ゴミ捨てて
母なる海を
泣かせるな

大浜勝さん(名古屋屋市)



おさかなに
ゴミのごはんを
あげないで

長岡未桜さん(名古屋屋市)



ウミガメも
につこり浜の
ごみ拾い

D51(テコイチ)さん(犬山市)



このままじゃ
竜宮城も
ゴミ屋敷

青山薫さん(犬山市)



ヘルプヘルプ
マイクログラに
叫ぶ海

倉知武好さん(春日井市)



ポイすては
負のじゅんかんの
始まりだ

武田隆康さん(豊橋市)



捨てられて
10年100年
海の底

安田直人さん(刈谷市)



ビニールで
腹を満たして
逝くクジラ

山下宗一郎さん(岡崎市)



※入賞作品は、愛知県のWebサイト「あいちのうみのコト」においても公表しています。



河川ごみ調査の実施概要

1 目的

世界の海洋プラスチックごみの約8割は陸域から発生しているとも言われており、漂流経路となる河川の周辺（河岸・河川敷）に散乱するごみの分布状況や組成を調査することで、海洋ごみの発生源の実態を把握し、効果的な発生抑制対策を推進するための基礎資料を得る。

2 調査時期

2023年10月～11月頃

3 調査対象水域・範囲

県内の各地域（尾張、西三河、東三河）を代表する4水域について、1水域10km程度（合計40km）の調査範囲を設定し、河川ごみ量等の調査を行う。

調査範囲は、海岸へのごみの輸送量が多いと考えられる地域（人口集中地区、河川の蛇行等ごみが溜まりやすい特徴、河川敷の利用等）に加え、周辺の土地利用状況（住宅地、農地、山地、工業地域）を考慮して設定した。

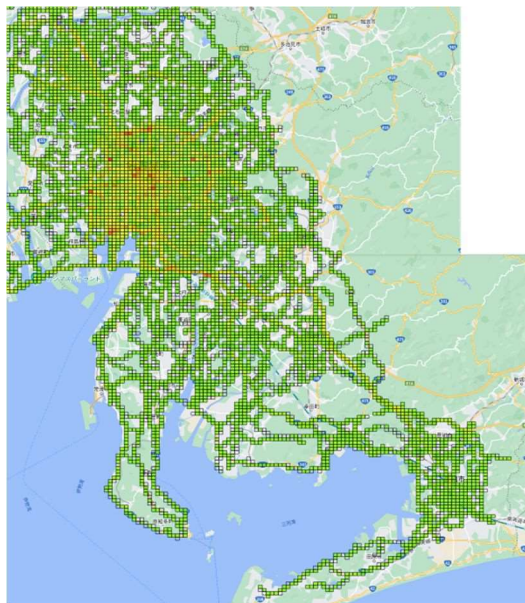
※ 設定にあたっては、「ごみ分布調査サービス タカノメ（自動車版）」による陸域の散乱ごみの分布状況に関するデータも参考とした。



図 調査水域・範囲

<参考>「タカノメ（自動車版）」について

- ・(株)ピリカが開発した、車載カメラにより撮影した動画から、路上の散乱ごみの有無をAIによって判定、路上ごみの分布密度を地図上に示すサービス。
- ・本調査では、2022年7月～2023年6月までに県内を走行した12台の車両から得られたデータを参考とした。
(右図は一辺500mのメッシュで表示。)



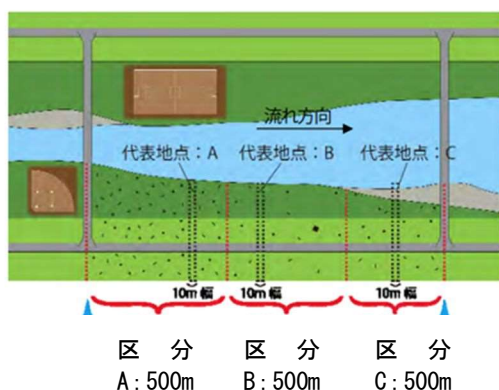
4 調査方法

「散乱ごみ実態把握調査ガイドライン」(環境省)に準じて、実施する。

(1) 概況調査

各調査範囲内に最大約500mの調査区分を複数設け、区分の中の平均的なごみ量の場所を10m幅の代表地点として設定する(合計で40～60地点程度)。
代表地点において、目視によりごみ量(ランク)を調査する。

<調査区分のイメージ>



<ゴミ袋数と「ランク」の対応表>

- 散乱ゴミ：河川延長方向10mの範囲で回収したゴミの量(袋量)
- 粗大ゴミ：1箇所のゴミの量(袋量)

| ランク | 20Lのゴミ袋数量(範囲) | 回収した際のゴミの容量のイメージ | 容量(L) |
|-----|----------------------|--|-------|
| 0 | 0袋 | (自然物を除いて) 全くゴミがない | 0 |
| TT | 約1/16袋 (1/10袋以下) | 500mLペットボトルが1～2本程度 | 1.25 |
| T | 約1/8袋 (1/10～1/5袋) | 2.0Lペットボトルが1本程度 500mLペットボトルが3～4本程度 | 2.5 |
| 1 | 約1/4袋 (1/6～1/3袋) | 2.0Lのペットボトルが2本程度 | 5 |
| 2 | 約1/2袋 (1/3～2/3袋) | 2.0Lのペットボトルが4本程度 200～350mLの飲料缶が15本程度 | 10 |
| 3 | 約1袋 (2/3～1.5袋) | 2.0Lのペットボトルが8本程度 200～350mLの飲料缶が30本程度 ポリタンクならば1本分程度 | 20 |
| 4 | 約2袋 (1.5～3袋) | 2.0Lのペットボトルが16本程度 ポリタンクならば2本分程度 | 40 |
| 5 | 約4袋 (3～6袋) | 2.0Lのペットボトルが32本程度 みかん箱ならば3箱分程度 | 80 |
| 6 | 約8袋 (6～11袋) | ドラム缶が1本分未満程度 | 160 |
| 7 | 約16袋 (11～23袋) | ドラム缶が1.5本分未満程度 | 320 |
| 8 | 約32袋 (23～42袋) | ドラム缶が3.0本分未満程度 | 640 |
| 9 | 約64袋 (42～90袋) | 一立方メートル程度 | 1280 |
| 10 | 約128袋 (90袋以上) | 軽トラで一台分程度 | 2560 |

※ランク付けの方法は、「水辺の散乱ゴミの調査評価手法(第4版)」(国土交通省東北地方整備局、JEAN/クリーンアップ全国事務局、特定非営利活動法人リートナーシップオフィスの協働により2004年に開発)に準拠しています。

(2) 詳細調査

- ・ 概況調査の結果を踏まえ、調査範囲の中から各水域2地点(計8地点程度)の調査地点を選定し、各地点で10m×10mのコドラートを設定し、コドラート内の河川ごみを回収し、分類、計量(個数、容量、重量)する。
- ・ 分類は、「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン」(環境省)に準ずる。